



学校図書館だより

1月号

令和6年1月
柏市立柏中学校
学校図書館

新しい年を迎えました。どのように冬休みを過ごしましたか？1・2年生は1年間のしめくりとして、3年生は進路も決まる大事な時期として、ますます忙しくなります。体調を整えて過ごして下さい。今年もよろしくお願いいたします。

干支とは・・・

十干（甲、乙、丙、丁、戊、己、庚、辛、壬、癸）と十二支（子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥）を組み合わせた暦。「じっかんじゅうにし」とも読む。略して干支ともいい、干支は「えと」とも読む。中国の前漢時代にはじまり、日本には6世紀ごろに朝鮮を通じて伝えられた。十干と十二支を甲子、乙丑、丙寅というように60通りに組み合わせ、年、月、日にあてて用いる。日本では現在も、午年、未年などと十二支を年にあててよぶ習慣がある。また、暦だけでなく方位や時間をあらわしたり、人の運勢をうらなったりするときにも用いられる。

『十干十二支(じっかんじゅうにし)』,総合百科事典ポプラディア (Sagasokka!) より, (2023-12-20 閲覧)

今年の干支は
「辰」だよ!



新しき 年の初めの 初春の 今日降る雪の いやしけ吉事
大伴家持 (万葉集 巻20/4516)

今月のテーマ:「万葉集」



『日本の古典をよむ 4 万葉集』
小島 憲之・木下 正俊・東野 治之 (校訂・訳)
小学館 (NDC918)

生きる喜び、人生の哀しみ、恋、そして別れ一。日本語でうたう喜びにあふれた若々しき万葉の歌声。歌の魅力をそのままにわかりやすい現代語訳と解説ですらすらよめる新編集。

※ライブラリーサーチより引用

『大伴家持と紀貫之 万葉集 土佐日記
古今和歌集 伊勢物語ほか』
国土社編集部 (編) 国土社 (NDC910)

人物を切り口に、その時代の文学作品を読み解く、日本の古典文学シリーズ。奈良・平安時代に活躍した大伴家持と紀貫之。貴族の教養として確立した和歌から三大和歌集を紹介。女流文学のさきがけとなった『土佐日記』などを解説。 ※国土社HPより引用 <https://www.kokudoshya.co.jp/>

『ビギナーズ・クラシックス 万葉集』
角川書店 (編) 角川学芸出版 (NDC911)

さまざまな階層の人々が自らの心を歌ったわが国最古の歌集「万葉集」から名歌約140首を選び丁寧に解説。参考歌を含めて約200首を収録。参考情報を付しながら、歌に託した万葉人のさまざまな思いがよくわかるように構成。原文も現代語訳も総ルビ付きで、朗読にも最適。

※ライブラリーサーチより引用

★学校図書館より★

★冬休みに借りた本は

1月12日 (金)

が返却期限です。

まだ返却していない人は

速やかに返却しましょう。

